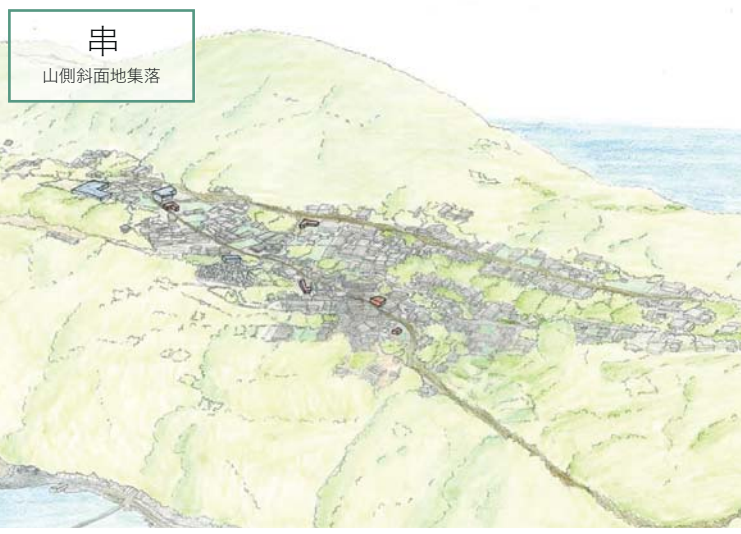


4 串ー正野に対する提案

対象：半島の最西端
串集落と正野集落

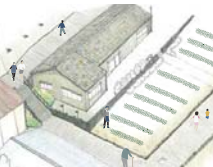
三崎の漁業の中心である正野は漁業が
石垣や路地が美しい串は住まい方が
アイデンティティではないかと私たちは考えています。
津波の被害に大きく多くの出る2集落とそれ間の平地、
3か所の手を加えることで
日々の生活の課題や災害等のリスクに対応しつつ、
これらのアイデンティティを引き継ぎ暮らしを提案します。

一つの集落で完結しない暮らしはふたつの集落にまたが
った移動を生み、日々の生活を豊かにします。
さらに災害時にも生業である漁業の場から遠ざかること
なく生業の復興を進めていくことができます。



生活基盤・居住機能を高める

現在串集落は、階段・歩道の劣化、空き家の増加、商店の閉店など生活基盤が弱くなっています。今回は、観光客や周辺集落の人を巻き込みながら、空き家の改修を行い、生活基盤を強く、串集落全体の居住機能を高める事を提案します。



空き家改修×生活道整備
集落への入口となる空き家の改修では、劣化した階段・道の整備、崩れそうな石垣の撤去・修復、街灯の取り付け等、集落内の生活基盤を整備します。

災害時は整備された再居住地

災害時には、生活基盤を強化しておいたことで、住みやすい住環境が整い、空き家はみなし仮設として利用することができます。正野の被災者は、串を拠点に佐田岬半島の復興を行い、串集落は既に整備された再居住地の候補となります。



商店改修×二拠点居住
空き家商店を改修し、二拠点居住者の働く場、週末にはお茶会・サークル活動を行います。集落内に人の繋がりがアクティビティを増やします。

隠居

地域には隠居の風習があり、住み替え・増築・減築が日常的に行われています。串の伝統的な平面は母屋・隠居・共用の水回りから構成されます。母屋・隠居は、平常時は観光・二拠点居住、災害時はみなし仮設と柔軟な住みこなしを提案します。



災害時×みなし仮設
串集落を拠点に佐田岬半島の復興に取り組みます。診療所周辺の空き家には高齢者が優先的に入居し、馴染みのある集落で被災生活を送る事が出来ます。

中間地の役割

暮らし、観光、防災、災害時の避難場所としての役割を担います。日常時、集落やその他の地域と繋がる結節点として機能します。災害時には避難の目的地・中継地として利用されます。



この地域にとっては高い場所になる平地はとても貴重です。現在利用されていないこの土地と、正野と中間地を結ぶ近道を整備します。正野と串、そしてその他の集落が交わる結節点としての機能を担います。集落の生業や観光の要となる漁具倉庫、銭湯、串集落に作る宿のレセプションを作ります。災害時には避難の目的地となると共に、平地は駐車場として利用されることで、車避難の効率を高めます。

配置図と平面図

レストラン「漁師物語」のリノベーション
衣替える漁具倉庫



銭湯
水不足が深刻な串集落で行われていた復興の文化を引き継ぐことで、人々が交わる場となります。仕事場である正野から引き上げ、夜は串集落で過ごすようなライフスタイルを促す場となることも期待しています。

漁具倉庫
季節ごとに使わない漁具をこの倉庫に保管します。震災時に、保障されにくい漁具の一部を守ることができます。観光客は倉庫に開いた窓から季節ごとに変わる漁具を見ることが出来ます。

正野の現状

正野集落には佐田岬半島・三崎漁協があり、そこが集落の中心的な場所となっている。一方で、港など集落のほとんどの箇所が津波発生時の浸水域に指定されている。また、集落には162世帯あり、そのうち57%が高齢者。



配置計画
仕事場・遊び場を漁港を中心にして点をさせることで、人々が集まりやすくなり、その結果避難のしやすさも繋がります。



仕事場・遊び場としての集落づくり

漁師の場合は、従来通り漁業をし、食堂などを作ること、港の近くで料理をしたり食事ができる場所を作ります。その上で、観光客が滞在できるような場所を作ります。たとえば、漁師が使う食堂でお昼を食べて、レンタサイクルの分店を置くことで、サイクリングの拠点としたりします。



既存のものを活かした空間づくり
現状で使われていない建物などの一部を利用して、仕事場・遊び場になる場所を作っています。

